

勝海舟 命名の真相



「この岬には 1582 の遣欧使節団が寄港しました」ユーラシア大陸の最西端ロカ岬を訪ねた際、ガイドさんが囁いた。

近代日本の夜明け・明治維新「外交の祖」といえば、勝海舟が直ぐ思い浮かぶ。旗本になった勝は幼名「麟（リン）太郎」。黒船で開国に繋げた米国に自身の幼名を配した「咸臨丸」で渡り、文化吸収を終え帰国した。

どこかで「勝海舟」に改名している。この起源（由来）に違いない史実を発見したので。



若年時に、自身の志「開国、交易…」を投影しながら勉強した文献に符合するフレーズを見つけ出したとしたら・・・どうだろう。



なんとポルトガルのロカ [ROCA] 岬「ここに地尽き、海始まる」の碑がある懐に、キリシタン大名の使節団が初めて外地を踏んだ小さな港がある。・・・その名を [CASCAIS] “カスカイス”というのだ。

思い巡らしてこの推論に至った時、鳥肌が立ったことは筆舌に尽くしがたい。